

第3回 人生100年時代構想会議
議事録

(開催要領)

1. 開催日時：平成29年11月30日（木）17:15～18:15

2. 場 所：官邸4階大会議室

3. 出席者：

| | | |
|------|------|------------|
| 議長 | 安倍晋三 | 内閣総理大臣 |
| 議長代理 | 茂木敏充 | 人づくり革命担当大臣 |
| 副議長 | 林 芳正 | 文部科学大臣 |
| | 加藤勝信 | 厚生労働大臣 |
| 構成員 | 麻生太郎 | 副総理 兼 財務大臣 |
| | 菅 義偉 | 内閣官房長官 |
| | 野田聖子 | 女性活躍担当大臣 |
| | 松山政司 | 一億総活躍担当大臣 |
| | 世耕弘成 | 経済産業大臣 |

(有識者)

| | |
|-----------|----------------------------|
| 三上洋一郎 | 慶應義塾大学2年生、株式会社GNEX代表取締役CEO |
| 米良はるか | READYFOR株式会社代表取締役CEO |
| 品川泰一 | 株式会社ユーキャン代表取締役社長 |
| 宮本恒靖 | 現ガンバ大阪U-23監督、元サッカー日本代表主将 |
| 宮島香澄 | 日本テレビ報道局解説委員 |
| リンダ・グラットン | 英国ロンドンビジネススクール教授 |
| 高橋 進 | 日本総合研究所理事長 |
| 樋口美雄 | 慶應義塾大学商学部教授 |
| 松尾清一 | 名古屋大学総長 |
| 鎌田 薫 | 早稲田大学総長 |
| 榊原定征 | 日本経済団体連合会会長 |
| 若宮正子 | ゲームアプリ開発者 |

逢見直人 日本労働組合総連合会会長代行
(神津里季生氏代理)

臨時構成員 梶山弘志 まち・ひと・しごと創生担当大臣

(議事次第)

1. 本日の議題
リカレント教育、大学改革
2. 議事次第
 - (1) 議員からの発言
 - (2) 内閣総理大臣発言
 - (3) 閉会

(説明資料)

- 資料1：リカレント教育、大学改革 参考資料
- 資料2-1：リンダ・グラットン議員 提出資料（英語）
- 資料2-2：リンダ・グラットン議員 提出資料（事務局による日本語訳）
- 資料3：高橋 進 議員 提出資料
- 資料4：松尾 清一議員 提出資料
- 資料5：鎌田 薫 議員 提出資料
- 資料6：逢見 直人氏 提出資料
- 資料7：樋口 美雄議員 提出資料
- 資料8：林文部科学大臣 提出資料
- 資料9：加藤厚生労働大臣 提出資料
- 資料10：梶山まち・ひと・しごと創生担当大臣 提出資料

(概要)

○茂木人づくり革命担当大臣 それでは、ただいまから第3回「人生100年時代構想会議」を開催いたします。

本日の議題に入ります前に、榊原議員より発言を求められておりますので、御発言をお願いしたいと思います。

○榊原氏 前回会議での総理からの御要望についてでございます。

消費税率10%への引上げを大前提として、企業で働く従業員の就業継続あるいは仕事と子育ての両立支援を後押しするといった観点から、待機児童解消に向けた子育て安心プランの来年度からの実現に協力いたします。その際、事業主拠出金は、総理から御提示があった3,000億円を上限としていただきたい。保育所の整備状況に応じた段階的な拠出としていただきたいと思っております。

その一方で、企業は既に拠出金として約4,000億円を負担しております。今回の追加分を合わせますと合計で7,000億円と極めて大きい負担となります。そこで、政府には雇用情勢が大幅に改善している状況を踏まえまして、労働保険料率の引下げ等の負担軽減策を御検討いただきたいと思っております。また、負担感のより重い中小零細企業に対する特別な支援策や中小零細企業への丁寧な説明を

お願い申し上げたいと思います。

さらに、今後、社会保障関係の予算編成も大詰めを迎えておりますけれども、企業に新たな負担を求める一方で、医療、介護に関して診療報酬本体あるいは介護報酬の改定率が緩むことのないよう、これまでの安倍政権での歳出改革の取組をしっかりと継続して踏み込んだ改定内容としていただきたいと思います。社会保険料が年々上昇することになれば企業の賃金引き上げ努力もそがれるということになりますので、ぜひこの点も御配慮をいただきたいと思います。

私からの発言は以上です。

○茂木人づくり革命担当大臣 榊原議員、ありがとうございます。

榊原議員からの大変前向きな御返答内容も含めまして、政府では12月の上旬に新しい経済政策パッケージを閣議決定する予定であります。この構想会議におきましては、政府の新しいパッケージを基礎として、12月の中旬に中間報告を取りまとめいただくこととなります。よろしく願いいたします。

それでは議事に入ります。この会議では、これまで幼児教育、高等教育の無償化・負担軽減の議論を進めてまいりましたが、本日の議題はリカレント教育、大学改革であります。この議題につきましては、来年も継続して議論をいただいて、最終的には基本構想に結論を盛り込みたいと思っているところであります。その意味で本日はキックオフですので、簡潔な御発言をお願いできればと思っております。

本日は、地方大学との関係で梶山まち・ひと・しごと創生担当大臣にも御出席をいただいております。また、初回に引き続きましてロンドンからリンダ・グラットン議員にも来日をいただいております。まず、グラットン議員から御発言いただきたいと思います。

グラットン教授、お願いいたします。

○グラットン氏 ありがとうございます。

まず、生涯にわたる教育の提供主体として大学教育を考えることとしたい。教育機関は教育の提供者となるが、企業も役割を果たすし、政府もまた同様です。私はまず、企業、そして企業の役割についてお話ししたいと思います。

企業にとって生涯にわたる学習の第一義的な役割は、人々のアップスキル（技能の向上）、つまり、既に行っている仕事をより上手にできるようにすることです。今、私たちが生きている世界は、労働や仕事の本質が変わっていくという意味で破壊的な創造が行われています。こうした中、政府にとっての本当の課題は、どのようにして人々のリススキル（新たな技能習得）をするのか、つまり労働者がある仕事から別の仕事に移ることを、どう実際に支援するのか、ということです。当然のことながら、企業は、リススキルの支援の役割を企業が果たすべきものとは考えておらず、政府が支援するものと当てにしています。

アップスキル（技能向上）について少し時間をいただくなれば、多くの企業の例があります。例えば、ケンタッキーフライドチキン社は、オンライン学習と小グループでの学習とフィードバックを組み合わせた、非常に集中的なアップスキル（技能向上）の手法を開発し、社員全員に行っています。

より内容のあるもの取組例として、アップスキル（技能向上）とリススキル（新たな技能習得）の両方に非常に力を入れているインドのIT業界が挙げられます。例えば、Infosysは10万人の社員が学校で教えています。そして、教師になりたいという人には一定の額の金額が与えられます。政府の動きが不十分と考えたTCSとリプロが協働して、インドにおけるエンジニアリングスキルの向上に努めているのです。

ほかにも、Googleは、イギリスにおいて「デジタルガレージ」と呼ぶ方法で、人々のデジタルスキルの向上を行っています。

日本や諸外国において人々の寿命が長くなっているため、生涯を通じた教育や学びは、特に重要となっていますが、その提供について、企業は役割を果たすことができるし、果たさなければならぬと私は考えています。

次に、教育機関について話したいと思います。教育機関は当然、鍵となる存在です。カレッジや大学は、幅広く、基本的な教育を提供しており、これも大切です。しかしながら、今後15年の間に教育制度において大きな破壊的創造が起こる可能性があると考えています。多くの大学やカレッジは若い人だけのことを考えています。日本では25歳以上で大学に通う人は比較的少ないという現状があります。私自身、教授として大学にいますので、その立場から申し上げておりますが、大学は、非常に伝統的な教育方法を取っている場合が多いですし、変化が遅いということがこれまでに示されています。

大学の抱える課題は、いかにして25歳以上の教育に力を入れるのか、将来重要となることに近いカリキュラムをどう作っていくのか、また、革新的な技術をどう取り入れ、破壊的な新規参入者にどう対応するか、ということです。

人生100年時代について考える上で明らかなことは、100年の人生と技術的な変化の組合せによって、既存の3ステージの人生、すなわちフルタイムで教育を受ける、フルタイムで仕事をする、そしてフルタイムで引退生活を送るという人生から、もっとマルチステージの人生に変わっていかなければならないということです。これは、教育機関は、人々を、人生の移行のあらゆる場面で支援していかなければならない、ということです。特に組織に雇われない働き方へ移行するという点に関しては、私は、長い人生において、人々は自らビジネスを築くチャンスを与えられるべきであり、大学やカレッジは起業に必要なスキルを身につけることを支援できると考えています。

特に仕事の将来像について考えますと、2つのことを申し上げたいと思いま

す。1つ目は、デジタルスキルについてです。日本のデータを持ち合わせておりませんが、ヨーロッパを見てみますと、将来的に極めて重要になるデジタルスキルの獲得において、かなり進んでいる国もあります。

2つ目は、これは世界経済フォーラムのデータですが、将来最も重要となるスキルを示しています。私は世界経済フォーラムのとある会議のメンバーを務めており、来年1月のダボス会議で報告書が出ることになっています。ここでは、クリエイティブ・シンキング（創造的思考）やエモーショナル・インテリジェンス（情動知能）など、幾つか非常に重要な新しいスキルが挙げられていますが、大学あるいはカレッジでは概して教えられていない内容ですので、これはまさにカリキュラムの問題となります。

次に、革新的な技術の問題についてお話しします。

反転授業と呼ばれているものがありまして、生徒は最も質の高い教授たちによるビデオ授業を通して学習した後、教室でよりよく学ぶ、こういった方法は伝統的な授業よりもずっとうまくいっているということが示されていますが、反転授業を取り入れている大学やカレッジはほとんどありません。

2つ目の大きな革新的な変化、これは今、始まったばかりですが、バーチャルリアリティのような新しい技術を使うということです。こちらはイギリスの医学部での教育の様子を示しています。若手の医師に、バーチャルリアリティを使って教育を行っていますが、これは複雑で高度な技術を教える上で非常によい方法です。

また、最も大きな教育の破壊的創造はアメリカで起こっています。これは、シリコンバレーとスタンフォード大学の組合せや、ボストンとハーバード大学の組合せがあるからではないかと考えています。非常によく確立された知のクラスターであり、民間の資金によってオンライン教育が提供されているという点で、はるかに先を行っています。オンラインの教育は、期待されるほどの成果がまだ上がっていませんけれども、次の世代ではさらにすぐれたものになるでしょう。

LinkedInといったような企業は、今、労働市場についてのデータを持っていて、オンライン学習と組み合わせて使うことができるようになっています。

最後に、政府の役割についてお話ししたいと思います。企業に話を聞きますと、教育に関して、政府には2つの役割があると言っています。まず、リスキル、すなわち、人々が仕事を変えることを支援すること。もう一つは、人々が将来の労働市場を理解し、予想できるように支援すること。

政府の取組という点で最もよい例はシンガポールとデンマークですが、これらは小国であり、労働市場も非常に均質です。ですから、シンガポールやデンマークを見ても、そこから参考とするのは難しいものがあります。

最後に、将来の仕事ということで、もう皆さんは御存じかと思いますが、シンガポールではSkills Futureという取組があります。これは研修を国民全員に提供するものです。

以上です。ありがとうございました。

○茂木人づくり革命担当大臣 グラットン先生、大学という非常に伝統的な組織に属していらっしゃるにもかかわらず、提案に満ちた発表をいただき、ありがとうございました。

それでは、各議員からの御発言をいただきたいと思います。向かって右側の品川議員から順次お願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○品川氏 リカレント教育については、仕事と家事の忙しさ、費用がかかりすぎるといえる点が自己啓発を阻害する要因です。

時間については、自由度の高い通信教育やオンライン教育などで解消できる可能性が高いと感じます。

費用については、職業訓練給付制度が負担感を軽減する役割を担っていますが、以下の3点については検討が必要であると思います。

1点目は学習形態による給付の「格差是正」の必要性です。現状は、専門実践教育訓練給付金と一般教育給付金の2つに分けられ、同じ目的の訓練であっても学習形態によって給付額が大幅に異なります。例えば、保育士・介護福祉士などは、通学であれば最大7割給付、通信教育であれば2割給付と、学び方によって差が出てしまうのが実情です。学び方が違って志は同じですから、「同一資格訓練は同一の給付率」を前提とする制度設計は重要課題であると思います。

2点目は「給付率引き上げ」の必要性です。業界の傾向を見ても、リカレント教育を推し進めるためには、給付率を引き上げることが最優先であることが明らかです。特に保育士・介護福祉士、多様な働き方の前提となる高卒認定等の資格は、最終的には無償化をめざす必要があるのではないのでしょうか。

3点目は「給付要件見直し」です。学び手の責任の明確化・税金の有益な活用という視点から、給付要件は、資格講座等の「修了」ではなく、「資格合格」・「スキル習得」に引き上げ、明確な成果を目指す必要性も感じております。

人生100年時代の人づくりには、学び手が自ら学びたい時に学べる社会をデザインしていくことと、学習の成果を求めることが必要不可欠です。そのためには、先ほど申し上げました3点を、速やかに官民一体となって取り組んでいただきたいと思います。

○茂木人づくり革命担当大臣 ありがとうございます。

続いて、高橋議員、お願いいたします。

○高橋氏 お手元の資料3、1枚物をご覧くださいと思います。

まず、リカレント教育についてですが、これまでリカレント教育の機能というのは主として企業内教育で提供されてきたと思いますが、いろいろな意味で限界に達していると思います。

今後、高等教育機関には、実践的な専門教育、創造性・イノベーション能力を磨くための教育が求められると思います。異世代の交流を促進するとともに、オンライン授業などの教育分野のイノベーションを進め、新規参入も促進すべきだと思います。

また、教育機関、産業界、行政の連携を進め、働き方・学び方の調整、ニーズを踏まえた教育内容、教育人材の確保などに取り組む体制を構築すべきだと思います。

リカレント教育を受ける側の支援については、雇用保険制度における教育訓練給付内容の見直し・拡充を図るべきだと思います。

次に、大学改革について申し上げます。少子化にもかかわらず私立の大学数は増加しており、私立大学の4割強が定員割れ。一方で、学生の学習時間は極めて短いなど、学生の質が懸念されております。今後は教育の質の向上に重点を置くべきだと思います。こうした観点から3点申し上げます。

1つ目は、大学教育の質や成果の「見える化」、経営への外部人材の登用の促進、ガバナンス改革など経営力強化等に取り組む必要。

2つ目に、特に教員・研究者評価あるいはファカルティ・ディベロップメントの推進が必要だと思います。そして、大学教育の成果を明らかにするための手法の検討。これは大学に入ってからどれだけ学生が伸びたかということ測る手法ということでございます。私学助成の効果分析や定量的指標による配分の見直し等の検討を行うべきだと思います。

最後に、私立大学の公立化が経営困難な大学の安易な救済にならないよう、地域の教育・研究機関と地元産業界等との連携等を議論する場を設置して、撤退、事業承継も含め、経営のあり方を決めるべきだと思います。

以上でございます。

○茂木人づくり革命担当大臣 ありがとうございます。

先ほどのグラットン教授のプレゼンテーションの中でも教育者が鍵だという話ですが、松尾議員、お願いいたします。

○松尾氏 資料4にありますので、また後でござんください。

Society5.0や人生100年時代社会といったビジョンを実現する人材の育成は高等教育の重要なミッションであると考えています。

その上で、私は、1番目、経済的困難を抱える若者への支援とともに密度の高い学修など、大学における教育の質の保証。

2番目、学び直し、リカレント教育のための環境整備の産学官を挙げた構築。

3番目、産業振興と地域創生の核としての国立大学の積極的な活用。

オンライン教育など遠隔分散型教育システムの活用。

特に地方におきましては、国立大学を中心とした新しい価値創造や社会との連携を担うリーダー。これは博士人材を含みますが、その育成と積極的な活用。

そして、最後に、国立大学の一層の改革に加えまして、国や産業界においては学び直しを奨励する職場環境の醸成や政策的財政的支援を行うこと。

以上のことを提言したいと思います。よろしく願いいたします。

○茂木人づくり革命担当大臣 ありがとうございます。

鎌田議員、お願いいたします。

○鎌田氏 お手元に資料5を配らせていただいております。短く要点だけ申し上げます。

社会人教育につきましては、期待する学びの内容、グレード、学位の要否、通学の可否など、ニーズが多様化しています。早稲田大学では、こういった多様なニーズに応じたプログラムを提供することで約4万5,000人の社会人に教育を施しています。これをより社会的に意味のあるものにするには、第一に、企業において学びを奨励するとともに、学びの成果を採用、昇進、報酬などに反映させることが必要だと思っております。

第二には、社会人教育には非常にコストがかかる。オンライン教育も、いつでも質問に答えられるような体制を整えるには、対面授業よりも経費がかかるぐらいなので、こういったコストを社会、本人、企業がどういう形で分担するのが最も公正で、より競争的に社会人教育を発展させることができるか、こういう観点でぜひ支援のあり方、コストの分担のあり方を御検討いただければと思っております。

○茂木人づくり革命担当大臣 ありがとうございます。

それでは、宮本議員、お願いいたします。

○宮本氏 私は現役引退後にしっかりと学び直したいという気持ちがとても大きくて、FIFAマスターという海外の修士課程に行きました。そこでは24カ国から人々が集まってきて、本当に実践的な学びを経験できました。そこでの経験は現役時代17年間に匹敵するようなものになりましたし、得られた知見やネットワークは自分にとってのいわゆる無形資産というものになったと思っております。

学び直したいという欲求を持っている方は多いと思っておりますし、リカレント教育の場面において大学及び大学院が果たす役割というのは非常に大きいと思っております。そのためには、社会の最前線で活躍できるような実践的な学びを得ることができるような大学が必要ですし、より高度な研究を行うということができない大学も必要だと考えます。

国際競争力のある海外の大学と提携した課程を開設するなど、学び側のニーズに応じて幅広い選択肢があることが重要だと思います。各大学が特色を生かして選択と集中をしていくことが必要だということにも考えています。

以上です。

○茂木人づくり革命担当大臣 ありがとうございます。

それでは、改めて榊原議員、お願いいたします。

○榊原氏 リカレント教育についてですが、企業で働く従業員に求められる知識や能力は時代の変化とともに大きく変わりつつあります。リカレント教育を拡充して、転勤、転職、あるいは再就職、職場復帰などを支援していくことが重要でございまして、これは企業の生産性向上にもつながると考えます。

経団連は今月、主要企業にアンケートを行いました。その結果ですが、既に85%の企業が従業員の学び直しのために大学での再教育を実施しております。ただ、派遣大学の半分以上、52%は、海外の大学院に派遣しており、この傾向は年々強まっているということでございます。

一方、学習の分野ですけれども、これまでは経済とか経営学が主流であったわけですが、今後は工学やバイオ、IT、また最先端の知識や技術の習得に力点を置いたプログラム、あるいは独創的な発想による問題解決能力を養うプログラムへのニーズが高いといったことが示されております。リカレント教育の拡充においては、日本の大学において、海外の大学と競合できる教育内容と教育環境、また、教育のプログラムもただいま申し上げた企業側の現場のニーズを反映した形に変えていくべきと考えます。これは今後、大学改革の1つの大きなテーマであると考えます。

私からは以上です。

○茂木人づくり革命担当大臣 ありがとうございます。

それでは、今日、代理で御出席いただいております連合の逢見会長代行、お願いいたします。

○逢見氏（神津里季生氏代理） 資料6も参照していただきたいと思います。

社会人の学び直しについては、まずは企業が必要な訓練時間を確保すべきです。また、転職、離職時の再訓練、保育所不足で育児休業を長期化せざるを得ない労働者、介護休業者への教育は、地域大学との連携を強化し、その後の企業内での活躍につながるわけですから、地域地場企業の細かなニーズを捉えたプログラムに厳選すべきです。なお、雇用保険の積立金は、雇用情勢が悪化した場合、急速に減少することが想定されます。費用対効果の検証や本体給付とのバランスなどが不可欠です。

2019年度新設の専門職大学も社会人向けに技術革新や地域活性化に対応すべきです。編入制度の弾力化、夜間大学院の拡充、科目等履修制度・研究生制度

の活用、通信教育・放送大学や公開講座の拡充、施設の地域開放を進めることが必要です。

また、学校教育法によらない省庁や独法、自治体が設置する大学校では、国の奨学金を利用できません。これについても改善を検討すべきだと思います。

以上です。

○茂木人づくり革命担当大臣 ありがとうございます。

それでは、お待たせいたしました。樋口議員、お願いいたします。

○樋口氏 資料7に基づきまして意見を要約して述べさせていただきたいと思っております。

日本の現状を考えますと、リカレント教育にしる、大学教育にしる、企業側も、また教える大学側も、さらには受講生も、その効果が十分発揮できているのかどうかということについては疑念を持っていると思います。この疑念をやはり払拭していくというようなことがもう最大限求められることでございまして、そのためにはグラットンさんがおっしゃるような大学も変わっていかねばいけない、教える側も変わっていかねばいけないということでございしますが、同時に、それを受け入れる企業のほうにおいても、やはり人事制度をはじめ変わっていかねばいけないのではないかとこのように思います。特に人材の配置転換の問題、あるいは人事異動の問題、さらには昇級、評価の問題、こういったものも含めて見直していく必要があるのではないかと考えております。

以上でございします。

○茂木人づくり革命担当大臣 ありがとうございます。ほかにございしますか。

それでは、続きまして、出席閣僚からの御発言をいただきたいと思っております。林文部科学大臣、お願いいたします。

○林文部科学大臣 大学改革とリカレント教育について、資料8をお配りしておりますので、後でお目通しいただければと思います。

まず大学改革ですが、教育の質保証を進めるとともに大学経営基盤の強化、連携・統合等の推進、こういうことの具体的方策について来年秋ごろまでに中央教育審議会で結論を得たいと思っております。また、支える基盤の強化を引き続き図ってまいります。

リカレント教育ですが、お話があったように社会人の方々が大学や専門学校で学びやすくなりますように産学官の共同の教育プログラムの開発、また、短期プログラムやオンライン講座等々、大幅拡充を図っていかねばならないと思っております。

また、雇用保険制度など、関係省庁との連携を進めてまいらなければならないと思っております。

産業界におかれましては、今、樋口先生のお話にもありましたが、プログラムの開発実施への参画、社会人の学びの積極的な支援、評価、両面でよろしくお願いいたしたいと思えます。しっかりと取り組んでまいります。

以上です。

○茂木人づくり革命担当大臣 ありがとうございます。

それでは、引き続きまして、加藤厚生労働大臣、お願いいたします。

○加藤厚生労働大臣 資料9でありますけれども、まず、厚生労働省としては何歳になっても学び直しができる環境整備をしていくということで、①の中にありますが、教育訓練給付の拡充や短時間労働者などへの支援の拡充、さらにeラーニングを活用した企業内訓練への支援の拡充などを通じて、リカレント教育機会の更なる拡充を図るとともに、学び直しができる環境整備の強化等にしっかりと努めていきたいと思っております。

なお、これらの取組は先ほど連合のほうからお話がありましたが、雇用保険制度の枠組で行うものでありますので、平成28年度に引き下げた雇用保険の料率を維持できるようにしながら、しっかりと対応していきたいと思っております。

○茂木人づくり革命担当大臣 ありがとうございます。

冒頭申し上げましたが、このリカレント教育の問題、さらには大学改革等の問題、大変重要なテーマでありまして、中間報告につきましては、できれば方向性や課題、これを書き込んだ上で、来年、さらに突っ込んだ議論を進めていきたいと思っております。

時間の関係で、総理発言にできれば移りたいと思っておりますが、この際、ぜひ一言という方がいらっしゃいましたらお願いいたします。よろしいですか。

それでは、プレスが入ります。

(報道関係者入室)

○茂木人づくり革命担当大臣 それでは、総理、お願いいたします。

○安倍内閣総理大臣 冒頭、産業界に対する3000億円程度の拠出要請に対し、榊原議員から回答がありました。消費税率10%への引上げを大前提とした上で、企業で働く従業員の就労継続や仕事と子育ての両立支援を後押しする観点から、3000億円を上限として、段階的な拠出をいただけるというものであります。再度確認させていただいているようで恐縮でございますが、そういう話を頂きましたことに対して申し上げたいと思えます。

我が国の喫緊の課題である待機児童の解消に向けた子育て安心プランの実現に御協力いただけることになりました。重ねて御礼を申し上げます。

併せて、政府に対しては、雇用情勢が改善している状況を踏まえ、労働保険料率の引下げの負担軽減策などの検討要請がありました。中小・小規模事業者

に対する支援策を検討するとともに、労働保険料率については、保険財政の動向を検証しつつ、御要請について検討したいと思えます。

また、本日は、リカレント教育、大学改革についての議論をキックオフいたしました。リンダ・グラットンさんには、大変お忙しい中この会議のために、わざわざロンドンからお越しいただいたことに感謝を申し上げたいと思えます。

いつでも学び直し、やり直しができる社会を作る。人生100年時代を見据え、その鍵であるリカレント教育の拡充を検討するとともに、現役世代のキャリアアップ、そして中高年の再就職支援など、誰もが幾つになっても、新たな活躍の機会に挑戦できるような環境整備を図ってまいりたいとこのように思えます。

本日頂いた御意見を踏まえ、来年前半に取りまとめる基本構想に向けて、検討を加速してまいります。

また、政府は12月上旬に、新しい経済政策パッケージを取りまとめますので、次回12月中旬の会議では、これを含めて、人生100年時代構想会議の中間報告の取りまとめをお願いしたいと思えますのでよろしくお願い致します。

○茂木人づくり革命担当大臣 ありがとうございます。

プレスの方は御退室をお願いいたします。

(報道関係者退室)

○茂木人づくり革命担当大臣 ありがとうございました。

今、総理からもありましたように、次回は中間報告の取りまとめになるわけでありまして、事前に御意見を伺った上で取りまとめを進めたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして会議を終了させていただきます。ありがとうございます。